

目標 17

パートナーシップで目標を達成しよう

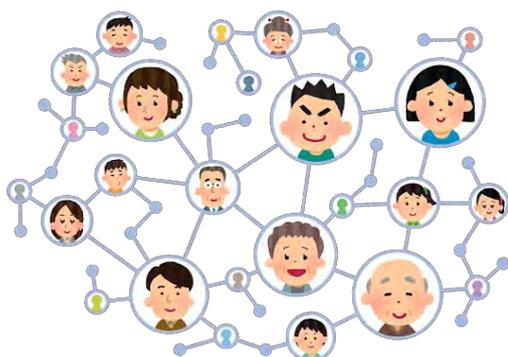
PARTNERSHIPS FOR THE 目標

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



●この目標(Goal)の解説

目標17では、目標16と並び、SDGsの1から15までの目標を効果的、統合的に達成するには欠かせない目標です。そして、1から16の個別の課題を解決し、変革をもたらすために、グローバルなレベルで何をし、どのようにみんなで協力するかを具体的に示しています。



目標1から目標16までを達成するための「実施手段の強化」と「パートナーシップの活性化」に向けた目標が掲げられています。具体的には(1)資金、(2)技術、(3)能力構築、(4)貿易、(5)制度・政策、(6)パートナーシップ、(7)データ、モニタリング、説明責任、の7つの実施手段ごとにターゲットが分けられ、19もの項目から成り立っています。

これらのターゲットを世界で統合的に達成するためには、それぞれの国が自分の国だけを考えるのではなく、先進国は途上国を支援し、政府だけでなく、市民社会や、民間企業、大学などの教育機関などあらゆるステークホルダーが目標達成のために協力し、歩みを進めていく必要があります。

大学生協は、大学というフィールドの中で組合員が協同し自分たちの力でより良い生活を目指していく協同組合です。その中で生活する学生、教職員、生協職員などの様々な組合員が、それぞれの立場や強みを活かして大学生協の仲間みんなで協同し、持続可能な社会を目指すためのステークホルダーとして活動に取り組んでいきましょう。

●大学生協での実践事例



弘前大学生協 りんご豚丼の商品開発

弘前大学では、地域に根差した人材を育成するインターンシップ事業に取り組んでいます。その一環として、弘前大学生・地元企業・大学生協が協力した「冷凍りんご」を用いた商品開発が行われました。2019年4月から打ち合わせと準備を進め、7月には開発した新メニュー「りんご豚丼」の試食会と、3日間限定の出食を生協食堂にて実施しました。大学・地域とともに、学生の爽やかな学びを育む場を作ることができました。



東京経済大学生協 様々な団体と協力した 総代会の取り組み

東京経済大学生協は、ゼミと協力したTFTの取り組みなど、様々な団体と協力し、取り組みを実施してきました。その成果を2019年総代会では、討論の時間を活用し、教職員や学生会の方に報告の機会を設けました。「組合員のよりよい生活を！」という生協と大学の共通の目的のもと、協力関係性と生協の可能性を組合員へ周知し、更なるステークホルダーとの協力・取り組みを発展させていくきっかけを作りました。



●この目標に対して私たちができること

👉私たちができること／自分の大学・大学生協でできることを考えてみよう！